

1960年代のモダニズム建築

山岡哲哉 株式会社山岡哲哉建築設計事務所 代表 / (公社) 日本建築家協会近畿支部兵庫地域会 地域まちづくり委員長

私は 1966 年生まれ、高度経済成長の時代に生まれ、育ちました。当時の日本は戦後を脱却し夢と希望に満ち溢れ、今日より明日、今年より来年が、より良くなっていくと、誰もが信じていた時代でした。

建築の世界でも、当時の日本人建築家のデザインは、自信にあふれ、大胆で、力強く、世界に向けて挑戦するようなものも多く、私はそれらの建築を「大建築」とよんで、愛でています。

「大建築」の定義は「大きい建築」という意味ではなく「偉大な」とか「大物の」という意味で、1950 年代後半から 1970 年代前半までの日本のモダニズム建築、特に迫力満点な骨太パワフル建築としています。



日南文化センター（丹下健三 1962）



都城市民会館（菊竹清訓 1966）



宮崎県総合青少年センター（坂倉建築研究所 1974）

これらの建築は当時の空気を反映して、技術的にも野心的で、またアポロ計画やサンダーバード等のテレビの影響か、宇宙的、科学的なデザインに満ち溢れています。

1970 年の大阪万博をピークに、オイルショックで高度経済成長が終わる 1970 年代まで日本中に「大建築」が建てられていきました。

しかしながらこれらのパワフル建築も、建設後 50 年以上を経過した現代では、老朽化、耐震性不足、機能が時代にあわない等の理由で取り壊され始めています。写真の都城市民会館も今は存在しません。

DOCOMOMO Japan では日本の近代建築の再評価のための活動を行うとともに、取り壊しが予定される近代建築について保存活動に取り組まれています。また、ユネスコの諮問機関が解体予定の建物の保全を求める声明を出したこともありました。しかしながら、保存されることなく、壊されてしまった名建築も多く、神戸でいうと DOCOMOMO Japan に

登録されていた日本真珠会館が、今年、解体されてしまいました。

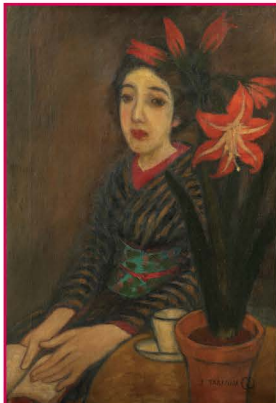


日本真珠会館（光安義光 1953）

そういう意味で、神戸ポートタワーがこのたび、耐震、免震化したうえで、新たな機能を付加し、リニューアルオープンしたことは 1960 年代建築マニアとしては大変喜ばしく、神戸のまちづくり、建物へのリスペクトの高さに感動しているところです。



神戸ポートタワー（日建設計工務 1963）



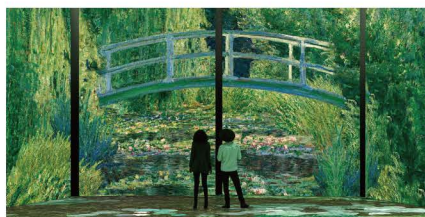
『アマリス』1919(大正8)年頃 油彩、カンヴァス 夢二郷土美術館蔵

生誕140年 YUMEJI展
大正浪漫と新しい世界

会場：あべのハルカス美術館
(あべのハルカス16階)
会期：2025年1月18日(土)～3月16日(日)
※会期中無休
時間：火～金 / 10:00～20:00
月土日祝 / 10:00～18:00
※入館は閉館30分前まで
問合せ先：06-4399-9050(あべのハルカス美術館)

モネ&フレンズ・アライブ

会場：デザイン・クリエイティブセンター神戸
1F KIITOホール (神戸市中央区小野浜町1-4)



会期：2025年1月4日(土)～3月30日(日)
休館日：月曜日(祝休日の場合は翌日)
1月9日(木)
開館時間：平日 11:00～18:00
土日祝 10:00～18:00
※最終入場は閉館60分前まで
問合せ先：キョードーインフォメーション
0570-200-888

©Photo: Grande Experiences

読者プレゼント

観覧ご希望の方は、住所・氏名・年齢・本紙への一言を添え、本紙編集部までハガキでお申し込みください。先着順で3名の方にペア招待券をお送りします！